



新品種「試交05-3」



従来品種のヘタにある「とげ」



従来品種に必要な受粉作業

日本初、受粉作業のいらない「とげなし」ナス新品種を開発

農業総合試験場では、(独)農業・食品産業技術総合研究機構野菜茶業研究所と共同で「単為結果性」と「とげなし性」を併せ持ち促成栽培に適したナス新品種「試交05-3」を日本で初めて開発しました。

本品種により農家は手間のかかる受粉作業が不要となり、労働時間を15%

削減できます。また、果実のへた、葉、茎など、いずれにも「とげ」が発生しないため、農作業や調理を「とげ」を気にせず快適に行えます。さらに、日焼け果などの発生がほとんどなく、年間を通した高い秀品率と日持ちが良く、加熱調理に向く特長も持っています。画期的な新品種にご期待下さい。(園芸研究部)